

授業科目 地域・在宅看護方法論Ⅲ	担当講師名	単位数 2	時間数 45	履修年次・前 / 後
	専任教員名			2年次/後期
講義のねらい	1 在宅で医療管理を必要とする療養者の看護が理解できる。 2 在宅療養している療養者の介入時期や状態別に合わせた看護が理解できる。 3 訪問看護における看護過程のプロセスを理解し、具体的な看護援助について学ぶ。			
授業形態	講義・演習			担当及び時間
講義内容	1 訪問看護における医療管理技術の理解 1) 在宅医療 (1) 在宅医療と診療報酬制度 2) 在宅における医療管理技術 (1) 薬物療法 (2) 在宅酸素療法 (3) 在宅人工呼吸療法 (4) 尿路変更・膀胱留置カテーテル管理・自己導尿の指導と管理 (5) 在宅経管栄養・経腸栄養法(胃ろう管理技術) (6) 在宅中心静脈栄養法(ポート) (7) 在宅褥瘡管理 (8) 持続携行腹膜透析			20
	2 在宅療養者の介入時期・状態別看護 1) 終末期の療養者 2) 難病による療養者 3) 長期臥床状態(寝たきり)にある療養者 4) 小児の療養者 5) 精神障害のある療養者 6) 認知症の療養者			15
	3 看護過程の展開 事例 1) 医療的管理を要する難病療養者(ALS)			10
教科書	地域・在宅看護論の基盤(1) (医学書院) 地域・在宅看護論の実践(2) (医学書院)			
参考文献	1 基礎からわかる地域・在宅看護論(照林社) 3 地域療養を支えるケア(メディカ出版) 3 必要に応じて資料配付する。			
評価方法	終講試験 1・2各 50点 合計 100点 終講試験 3 100点			
備考欄	教員とのコンタクトは授業終了後又は終講時に案内する。			